

# 緑と本に囲まれる、地域に親しまれる知の拠点へ

下馬図書館は昭和55年に開館し、築41年を迎えます。平成25年度には改修工事を実施し、改修前の機能をほぼそのまま継承しつつ、床・壁・天井などについてはリニューアルしていますが、わたしたちはさらに10年後、20年後も見据え、新たに求められる図書館機能を想定し、フロア構成の変更を含んだ新たな下馬図書館を提案いたします。実現するには大幅なレイアウト変更なども生じるため、中長期的な計画も想定されますが、現状でも可能な範囲での部分的な変更や、ソフト面のみについての反映なども検討可能と考えます。

公園と一体となった空間で、区民が心地よく過ごせるよう、フロアごとにコンセプトを持たせ、サービスとハードを一体化することで、単身者でも親子でも安心して過ごせる場所、学生が勉強をできる場所、それぞれがくらしの中で抱える課題を解決できる場所、地域活動と交わる場所など、地域特性と図書館機能の整合を実現させた下馬図書館の将来像を考えます。

## 1. 現状と課題

現状のフロアと機能および課題、また、そこから見えてくる施設の課題は以下です。

フロア	機能
3 F	一般／地域資料／閲覧席 ／対面朗読室／電算室
2 F	一般（文学等）／検索機 ／コピー機／事務室
1 F	児童／新聞・雑誌・CD／ 自動貸出機／カウンター
全般	公園に隣接する地上3階、 地下1階建て 1,092㎡

## 2. フロアコンセプト案

現状と課題を踏まえ、現下馬図書館の機能を拡充しながら、周辺住民や利用者にとって居心地がよく、「また来たい」と思えるような公園と隣接する滞在型図書館、近隣大学との連携や「ものづくり」などのクリエイティブな活動を支援する図書館を実現します。

現状のフロアごとに用途が完全に分かれている形態ではなく、フロアごとのコンセプトを持ちながらも、滞在出来る空間をそれぞれに設けることで、施設の回遊性と活性化を図ります。

### 3F 活動と創造のフロア

- ・一般資料
- ・可動書架
- ・活動の部屋
- ・ギャラリー
- ・閲覧席(スツール等)

### 2F 研究と読書のフロア

- ・一般資料
- ・レファレンス
- ・検索機
- ・学習・閲覧席
- ・コワーキングスペース
- ・対面朗読室

### 1F 公園から続くくつろぎのフロア

- ・児童資料
- ・新聞・雑誌(電子)
- ・タブレット貸出
- ・ブラウジングスペース
- ・予約棚
- ・自動貸出機、返却機

## 3. 公園との一体化

### 公園と一体となる施設

工夫して植物を施設内に設置することで、公園との一体感を生むだけでなく、リラックスさせるインテリアとしても機能します。空気の浄化、緑色による目の癒し効果、子どもが植物に触れる機会にもなり、さまざまな効果が期待できます。

### 公園も滞在空間へ

現在の公園はベンチが少なく、座って過ごすスペースが少ない状況です。そこで、公園一帯を芝生化する整備を行ったり、計画的に植栽選定を行い日当たりを調整したりすることで、心地よく過ごせる場所をつくり、公園の活性化も図ります。

### 屋外でのイベント実施

公園内または公園外にキッチンカーを呼び、マルシェなどを開催することでにぎわいが生まれます。人が集まる時間帯には一時的に外に本を置くなど、図書館機能を活かした屋外イベントを行います。また、こういったイベント開催時に市民のニーズ調査を行うことにより、地域に寄り添った選書やサービスの提供にもつなげることが出来ます。

## 4. 地域連携

昭和女子大学、ものづくり学校、生活工房など、図書館の周辺で行われるクリエイティブ活動と連携し、企画展や講座・イベント等を実施、地域の様々な活動と図書館がつながります。

## 各フロアの構成

1F 公園から続くくつろぎの空間

2F 読書や研究にいそしむ空間

3F 活動と創造の空間